

曼 身 體

體 身 年 曼 年 體

義 慶 熱 應

大 正 十 年 度

目次

麗澤先生筆蹟
 體育會年鑑發刊の辭……體育會理事 板倉卓造……………一
 體育會送別大會の記……………編輯員 野崎喜代治……………二
 陸上運動會の記……………記 錄 係……………五
 水上運動會の記……………記 錄 係……………一三

◆論説及研究

Geop Forward の研究……………蹴球部 横山通夫……………二三
 冬期登山……………山岳部 大島亮吉……………三二
 ホールドに就て……………ホッケー部 榎本 侂一……………四六
 スキーランナー雜筆……………山岳部 員……………五三
 最近の乗馬界と義塾乗馬會……………丸山繁次……………六〇
 創立卅週年紀念に際して……………弓術部 田尻種雄……………六二

◆各部々報

第拾回對四校聯合軍紅白試合の記……………柔道部 宮永金太郎……………六六
 野球部報……………野球部 記 錄 係……………七〇
 剣道部關西武者修業記……………剣道部 久保順吉……………七六

蹴球部々報……………蹴球部 岡田正一……………八三
 送別月次會の記……………弓術部 員……………八九
 對高師弓術試合……………弓術部 柳弓生……………九一
 器械體操部春季大會記……………器械體操部 員……………九三
 大正九年度對橫濱外人試合……………ホッケー部 石原育彌……………九八
 第廿二回對商科大學弓術試合の記……………弓術部々 員……………一〇〇
 漢名湖畔の生活……………器械體操部 員……………一〇三
 競走部大會記……………競走部 員……………一一一
 關西遠征記……………陸球部 須田治彌……………一二四
 弓術部關西遠征記……………弓術部 員……………一二〇

◆雜 錄

體育會幹事旅行……………相撲部 羽柴榮一……………一二三
 天臺其他器具貸出に就て……………山岳部……………一三三

◆報 告

大正九、十年度役員會議事錄……………一三五
 體育會役員連名……………一四〇
 編輯だより……………一四三

雜 錄

體 育 會 幹 事 旅 行 羽 柴 生

旅行日程 三月二十日より廿六日迄七日間。

(汽車中一泊汽船二泊旅館四泊)

旅行地 大阪、瀬戸内海、別府、中津、那馬、福岡、大宰府等

今年の體育會新舊幹事懇親旅行は例年よりも大規模に企てられた。何しろ大江戸の最中から九州の端までの膝栗毛だから随分長たらしい旅行だ。大正の世に生れた有りたがさを汽車や汽船で飛ばせながら日数は僅か七日で済んだが、此長々しい旅行記を拙ない筆で紀行もどきまで書いても此忙しい世の中だ誰も読み人があるまい。そこで関西や九州の旅行記を田山花袋や鐵道者の旅行案内に譲つて、茲では努めて一行の珍談や傑作を業破抜くことにしよう。先づ第一に一行の芳名を列記して見ると、先發の本會理

事坂倉教授を始めとし、御卒業さて立派な青魔で滄つて來られた方々には、最も多くの傑作を作つた瀧美君(鏡)、松本君(葵)、秋山君(颯)、林君(雄)、永井君(豊)の五紳士で、送る方では古顔の瀧川(水)、阿部大(秀)、阿部英(組)、五島(葵)、芝川(鏡)、深川(劍)、城田(水)、菅原(水)、新田(野)、水野(豊)、白田(鏡)、山中(孝)、川口(書)の諸君でそれに新進の平山(弓)、沖の株(瑞)、笹島(水)、羽柴(相)が加つて總勢二十三名、何れも一騎當千拚界の大立物、旅行中にさんな傑作をしたが、順次記憶をたどつて記して見よう。

◇ 汽車中の顔割り

一行を乗せた午後八時發神戸行の急行列車が國府津を過ぎて御殿場の邊を通過して居る午後十一時頃食堂車から口を拭いながら出て來られた瀧美君一ま

ん、隣の列車の隅に陣取つて、ボーカーに夢中になつてる永井、芝川、羽柴の一團の前に立止つて、選り取り諸君誰か、剃刀を持つて居ないかい。○「カンある今日床屋で剃いで貰つたばかりでよく切れるよ」と鋭利な西洋剃刀を渡すと、先生早速耳に唾をつけて立つた儘、然も走つてる汽車の中で、弾くもないうるを剃り出した。汽車がゴスンを揺れると「おれさ言つて剃刀を離し又やり出す、剃つてる當人より見て居る人がハラ／＼する、車中の視線がそれからそれと集り、吃驚して眼氣を醒す人もある。五分間程で綺麗に剃り上げて、顔をなでながら「ア、よく剃れた、有難うございばかりにサツサと自分の席に歸る。

其所此處の三人五人のグループはアリツヤやダウトで一勝負毎に歓聲を上げる、當の瀧美さんは見れば、二人前のシートを占領して鯛の様な體から盛んに汗を流して居る。窓の外は芙蓉の峯に頂く白雲が暗夜にもそれと知れる雄大な姿を懸けて居る。

夜は更けて行く。

◇ 大坂に着くまで

名古屋を過ぐる頃から東が白んだ。寒い朝だ。早くも冬外套を棄て、レンコートの瀟洒な姿を見て貰ふ積りの江戸つ早連は彼方でも此方でも、寒い寒いと震へて居る、六時頃關ヶ原の山中に着掛るさ途に糞混りの雪が降つて來た。三月末の雪は珍らしい九州は定めし暑いだらうと夏服なぞ着込んで來た、イカラ連中の恐慌は一通りでない。川口君から配られた、汽車兼當と熱いお茶とで寒さを凌ぎ、又元氣になつてトランプを始める、近江の琵琶湖が見えるさ注意されて、トランプを弱形に持つて窓から覗く静かな関西の春の景色も眺めたいは眺めたいが、賑やかなトランプから離れる事が出来ないといふ有様だ。「鴨川に來たよと促されて始めての人は顔が、そんな感慨深い顔をして居る。鴨川の水!! 鴨川の水!! さ聞いて何を聯想するたらうか、清く流れる水さ、人形のやうに美しい京の舞妓を聯想せずに居

られないではないか。静かな京都の盆地が目の前に
ひらけて来た、東寺の塔が見える、京都は歸りにゆ
つくり見る積りにして、汽車は間もなく梅田驛に入
る。丁度午前十時だ。先輩某氏の出向を受けて銘々
のトランクを一纏めにして自動車で築港に送り午後
二時の紅丸の出帆まで四時間、自由行動といふ事にな
つた何がさて年は若いし金はあるし、自由に飛び
廻りたい連中ばかりの事だから、大いに行き大名振
りを發揮せんと盛んに豪遊する。中には停車場から
程近い中島公園をアラ付くものもあれば、大坂城跡
を訪れる者もある。道頓堀や千日前で大坂式の繁華
を味ふ人もある。それかと思ふさカッパ碎けて、會
根崎の鯉川まで車を飛ばして例の「天の網島時雨の
炬燵」小春治兵衛の涙の跡を探らうといふ癖筋もあ
る。大ちゃん英ちゃん、新田の恭ちゃん、浩さん五
つさんなんかは道頓堀廻りだ、まむし屋（東宮のうな
ぎ家）に進入して居るのをちらり見受け、店で女
々の噂のを聞くと「ホンマに大きな同人なし人が

二人居てまつせ、どつちが見さんやらかわかりし
へん、まるでまむしの様たんナ〜」と言つて居る。
彼等は同輩したクラスメートの市居君と村上君の案
内で道頓堀から千日前、三越へも進入つて、蒸籠し
も食つて、宗右衛門町の狭斜街や、賑やかな両側を
一所に見へる心齋橋筋を要領よく見て廻つて船に選
れぬ様に急いだ。

◇紅丸で瀬戸内海を

出帆三十分前の一時半頃に船に乗り込んだが此時
にももう要領のいい、茶道部の一團、松本ボヤさんを
始め英ちゃん大ちゃん、滅花、二郎さん、浩さん瀧
川君などが、左舷に添つて一段高く、マツトになつ
て居る場所を先占して居る、先占なんかといふ法律
行爲にかけて、どうしても注料の連中が觀念に明
い、無主の座席を先占によつて取得する等と三淵さ
んの講義を實地に應用して居るからわりきれない。
遅れぬに参した之も注料の週美さん、恨めしそ
うに「オホ浩さん下と取替へて呉れよ」とせがむが浩

人特等席たさばかり仲々應じない。席に就いたり離
れたり、そばくして居る内に、出帆の汽笛が鳴
る。見送人が棧橋に列ぶ、船が静かに動く「左様な
ら」「御氣象よろ」と別れの言葉がかけられる。船の
音楽隊の奏樂に送られて静かに棧橋を離れる心持
は、汽車の速い呼子の合圖で一寸の余裕もなく發
車するよりも遙かに落付いていゝ、いかにも遠い國
に旗立する様だ。

◇船の中の賑ひ

トランプ 甲板で心行くばかり築港の景色を眺め
た一行はキャビンに歸つて一同トランプを始める十
人から五人七人が一團になつて「ダット」に「相巻親
の権利を二貫で買ったさか、札の儘十貫で賣れさか
事願々しい事願はしい事、右舷の船客も長氣に取ら
れて感はず真ひ笑いをして居る。いくら騒いでも學
生の修學旅行でする様な馬鹿騒ぎでなく、訓練され
た秩序ある賑やかさだから頼もしい。はたで見て居
ても氣持がよさうだ。乗り合はせたお角力さんの

對島洋彌吉君等は何度も何度も下りて来て、愉快な
騒ぎを演ましそに見入つて居つた。こんなに賑は
しいのに唯一人背い顔して隅の方に小さくなつて居
る人がある、誰かよく見れば川口五郎時宗だ、富士
の假屋に切込むのは恐れないが、船に酔ふのが恐り
くつて動けないのださうだ。

輪投げ トランプに飽きると甲板の上つて遊平に
別れて盛んな輪投げをやる。上手なのは劍道部の深
川君だ人の頭を叩く事を練習して居る丈あつて仲々
見當がいく、九點の所へばかり入れる。下手なのは
沖の株、川口、羽柴、週美の面々常に零點を取つて
敵を算ばせる。浩さんも中々の殊勳者で八點を三度
迄取つて大喝采を受けた。

へボ除け 夕食後の食ひなは甲板のベンチに向
ひ合せに腰をかけ一行二十三人手拍子揃へて「へボ
のけ、へボのけ、オチヨコオチヨコオチヨコ」と上手
の方から藤八等をやつて来る。中頃に座つた自田六
郎君、拳の勝敗を知らず、隣りの松本ボヤさんから

一時で知らせを受けて居る。白田君の番の時はおやさんが財で一つドンと突く事になつてゐる、突かれると變な手つきで調子外れに狐や鐵砲をこしらへる。勝つて扱いた時は又一つドン、うっかり知らせの無い時は敗けたものと思つて其儘止めて仕舞ふ等は仲々の愛嬌々々。

美人から揮發油 一行は皆制服で窮屈さうにして居る所に大きなトランクの中に鎧仙の着物を用意して来た新田の恭ちやん早速着替へに及んで大いに寛いで居た迄はよかつたが何處でくつ付けて来たか右の袖に白ベンキをとつさりつけて来た。石油で拭けば落ちるとの語でホイに頼んで石油を買ふ事にした。最前から此光景を見て居つた向側の美人が行李の中から一瓶の揮發油を取り出して「どうぞこれをお使い下さいませ」新田、ボールのドロップよりも眼珠尻をドロップして「エイトも有難ぶどうも有難ぶ」そして聞やき連のヨヨイといふ聲がする。

此船のホイさんの器用なのには驚いた出帆の時

は樂人のユニホームで音楽隊を組織し、食事には白衣を纏つてお給仕と早寝り夜間は浪花節、琵琶、落語、茶番と何人でもやつて船客を喜ばして居る。斯くして船中は歡聲の絶へる間もなく、甲板に登れば波静かな辯摩灘、備後灘、來島海峡、伊豫灘に點在する無数の島々は春光を浴びて金波銀波の中に或は遠く或は近く瀬戸内海の絶景が一時の下に入つて来る。瀬戸内海の春の景色は決して松島に劣るものではない、寧ろ規模の大きい範圍の廣い點に於て勝つてゐると言ひたい。斯くて二十六時間の航海を愉快に終へて二十三日午後四時心をそゝる入港の汽船と共に別府灣に着いた。棧橋は出迎の人で混雜して居る。一回上陸して案内を待つ間に紅丸を背景にして松木君が記念のカメラを一枚パツとやつた。

◇別府での出来事

船から上ると先着の飯倉先生や別府の先聲諸氏が御見へになる。一隊の宿屋は皆大分縣の共進會の用で御出になつてゐる御役人等に占領されてゐるさうで

廣島館といふ小さい宿屋に案内された。番頭に引かれて温泉氣分の豊かな長い通りを繞る。名物の別府饅頭や地獄染が到る處で賣つて居る。一行の名物男龍川純三君が名物を買ひ始めるのは此處から始まるのだ。

廣島館について一服も吸はん内に氣の早い連中は自動車を備つて居る。「どうするのだ」と言へば地獄廻りをするのだ。カツサと六人を乗せてアアアと走つて仕舞つた。湯から上つて来た沖の株、林、山中、僕、深川の面々は更に一臺を備つて血の池地獄に向つた。三百坪程の池に血の色をした熱泉が湧き出す様は仲々奇觀だ。水酸化鐵を含んで居つて其色血の様だから此名があるのださうだ。死んでから行く地獄の血の池もこんなものか寒心して海地獄に疾驅した。途中の田浦道で一行の自動車が子供二人を荷車請共に跳ね飛ばしてびやりつこした。どういふ機かといふと十一二の子供が車を後前にして押して来たのが自動車を擦れ違ふ拍子に一寸き車を右

にひれつたから棒樺が自動車の轍に當つて機を食つて一人は煙を越えて向ふの畑の上に一人は車と一所に道端に跳ね飛ばされたのだ。幸ひに少しの怪我もなかつたけれ共一時は驚いた。之を聞きつけた母親が「自動車に飛ばされた」といふ事支を聞いて亂氣になつて子供を叱り飛ばすのには閉口した。怒めても辯解しても言葉がよく通じないので通らない。子供は痛さよりも母親の權威に驚いて逃げ廻つて居る子供こそ自動車にはれ飛ばされたり親に叱り飛ばされたりこれら立つ瀬があるまい。

巽に懲りて風を吹く調子で車を徐々に走らせて海地獄に廻る。面積は二反程もあり透明で青藍色の熱湯は磐石でも溶かした様だ。數十尺下の底までも透る。湯煙は數里の遠くからも見へるといふ事である此處の茶店では即席地獄染をやつて居る。ハンカチに歌なり繪等を色で書くさ少女が地獄に持つて行つて蒸すさ十分か十五分で染付けが出来上つて好御の土産物となる。山中君なんかは頼りた名人染め

て居る曰く「別府遊覽記念」山中より何子様。響子様……と。東京の姪に送るんださうです。

◇ 砂湯と蒸湯

別府獨特の海濱の砂湯は氣候が寒かつた爲めにまだ出来てゐなかつた。埠頭近くの共同湯の中に人工の砂湯があつたがストレンジャーには嫌くて遣入れないのであつた。蒸湯には木桶に煮つた。廣島領の蒸湯に遣入らうと思つて下りて見ると、抑々蒸湯といふものは方一間高さ五尺位の室で、上方一個の湯氣抜きと、前面に狭い一個所の入口があるものだつた。遣入らうと思つて入口の戸を開くと中は眞暗だがよく透して見るを驚くなかれ中には二人のイヴが手拭を無花果無葉形に前に上げて仰向に寝てゐる。戸口の方に近く陣取つてゐるから遣入らうと思へばどうしても此イヴの體の上を裸のアダムが跨いで行ければならぬのだ。之には兜を脱いでそつと戸を締め彼等が出て來てから遣入る事にした。番頭の説明が振つてゐる。蒸湯は子孫繁榮の爲めに出来

て居る様なものです。さ。

◇ 福澤先生舊宅

別府から中津迄は汽車で二時間位である。之が福澤先生の故郷。と思ふと一入懐しい。好い感じのする町だ。城跡の公園に建てられた大理石に「獨立自尊」と大書した高い塔にも初めて見たと思へない位懐しい情が湧く。町長の案内で先生の舊宅を訪問し居宅を仔細に參觀した。先生が夜間の勉強室に當てられたといふ壁の土藏等は特に敬慕の情に堪へないものがあつた。側に立てられた管理所で名物中津バンの饗應を受けて參觀記念帳に紀念のサインを残して、中津三田會の招待を受けて中津軒に於けるデナーに列席郡長、町長始め先輩の歡待を受けて直ぐ耶馬溪に向つた。

◇ 耶馬溪

耶馬溪行の軌道に乗つて羅漢寺を詣つた。羅漢寺驛の一寸手前に帖返しや丈岩等の奇岩がある。武者小路さんだつたかの「怨仇の彼方へ」といふ脚本に

仕組まれて居る青の洞門は此處にある、羅漢寺は岩山の上に寺が構へられて居る丈で大して大騒ぎをする程の所でもない。歸りには雨に降られて大いに閉口した、それに汽車が故障の爲め一時間を遅れて居る。柿坂で宿についた時はとつぷり暮れて居つた。宿屋に着くと吾先に階子段を上つて行く。何の事かと思ふと丹前のおのを取りのたさうだ。栗領のおの者はどこ迄も栗領がい。瀧川君、阿部大兒君、芝川君、沖の株君等は絹の丹前を着て居るが吾々は階子段を駆け上らないばかりに木綿の田舎織の丹前だ。飯を待つ間にはやトランプに圍碁が始まる。中でもグットが一番賑やかだ。一番負けた者の手を一番上に載せて次は其下次は又其下と漸次に積み下げてサチ一番勝つた者が一二三とも何とも言はずに不意に振り上げた手を力任せに打下す。打つと見ると各は兼早く手を引込ますといふ痛い景物が一階買毎に付いて居る。ぼんやり手を引込ますに居ると何時でも叩かれて居なければならぬ。茲で阿部大六君、

御承知の入少手の様な手を振り冠つて十に餘る手の堆積を眼んで今や打下ろさんと構えて居る。手の持主は、打たれては事だ充分注意を拂つて打つとも見る間に一齊に引込めた。講談師の口調を借りて言へば此時早く彼の時遅く、憐れ大六君の手は強が壘を打ち下した。一座はとつと笑ひ崩れ當の本人はア痛イと指を啣へて後にひつくり返つた。

明るる日も相憎くの降雨だ。それでも新耶馬溪を見ずに歸れぬといふ篤志家は馬車三臺に分乗して雨の新耶馬を訪れた。篠つく雨に打交りなるはた、がみは交らないけれども大井川なら川止めに合ふ様な大雨だ。車から出る譯にも行かず二三の奇岩を見て這々の處で宿に歸つた。何にせ耶馬溪は山陽が誇張した程大した所ではない。山水の少い九州では好いところ相違ないが、山が淺く、水が緩るく、到底中國や東北地方に見え様な山水のやうな譯には行かない。

◇ 瀧美さん汽車を待つ

中津に臨る軌道に乗り込んだが發車間際になつても湯羹様の大きなずり體が見えない。ア、先刻宿を出る時に丹前姿で悠々と便所に行つて居つたがそれで間に合はないのではないかと皆で心配して居る内に汽車は遠慮なくヒョーと汽笛を鳴らして出て仕舞つた。東京横濱間と違つて之に乗遅れたら追付く術がないので出られては大變と皆一齊に窓から頭を出して、「オート汽車待つて呉れ、待つて呉れ!!」と怒鳴つたから運轉手が吃驚して五六間先へ出た汽車を止めて仕舞つた。其内周章で、駆けて來た湯羹さんが助船の白田君に怒き立てられて漸く無事に乗車した。中津から福岡迄の汽車旅行は平凡に過ぎて何も書くものがない。

◇福岡着

福岡に着いたのは二十五日の午後八時頃である。旅館と榮屋に分宿した。

◇太宰府行

翌朝先輩菅田氏の御案内で太宰府見物に行く。二

日市から輕便に乗り替えて三十分で太宰府天満宮の大華表の前に着いた。境内は相變らず梅が多い。例の菅公の飛梅が満開であつた。此處の社務所で學業成就のお札を買ふ人が多い。之さへあれば及第請合なのだそう。中には安産のお守を買つた人もあるらしい。真は公園になつて居つて腰掛茶屋などがある、名物の飛梅餅は珍らしかつた。名物買の淵川君は此處でも「飛梅の粉」や「うそ」や「梅語」を買つて重そうに下げて居る。

◇沖の株人形を愛する事

福岡縣名物博多人形屋の誰やかな店先に立つた沖の橋山中、芝川、水野の一行奇麗な人形の魅力にふらくさ引き入れられて、あれがいかゞか之がシヤンだとか充分選擇の上で各々御氣に召した現代美人の人形を二個宛買求めての歸るまゝ、山中君の買つた人形は一番の標緻よしといふ事に衆議が一決して見るまゝ株さんの買つたのはどうしてもそれに劣る様だ。株さん山中嬢にすっかり參つて仕舞つてどうぞ

盛大なる歓迎晩餐會

解散の前夜福岡三田會の招待を受けて送別晩餐會に臨んだ。先輩十九人に一行二十三名で計四十二人の盛大な宴會だ。博多美人の長い裾を引いた如御がまた桃割れの半玉に至るまで總勢十五六人の美形が恭しく配膳するのは體育會始まつて以來の事だそう。配膳が終ると板倉先生の挨拶がある。體育會の現状から、皆の紳士前旅行振を褒められ最後に茲に列席の方々は皆一藝一能に秀でた斯界の大家ばかりであるから藝者諸君も大いに敬意を表して呉れ、さいふ意味を述べられた。次から次で自己紹介を兼ねた短かい挨拶がある。中には親子二人が同時に出席する光榮を有するさいふ濱田氏「自分は政治料を四番不出た者です。四番さいふと中々秀才の様に聞へますが其時の同級生は六人で二人は落っこつて自分が四番だつた。其代りポルトとフットの選手をやつたがポルトの方は常に負けて居て一回も勝つた事がない」さいふ振つたのもあるかと思ふと、ホツク

私の娘と交換して呉れと哀訴歎願久しうしたが山中君もさるものなかつた。さいふそれとば取替へて呉れない。忽ち一つの條件を提出して「オート車を驕るなら取替へてやらう」と申出た。「何のそれしきの事はあ安い事だ」と早速承知の上三人を引つれてカフェー、パクリスタへさ入つた。さてパクリに這入つて見るにオート車で沿まらない連中の事さて〇「生二杯位はい、だらう」株マール仕方がないさ〇「生三杯位だからカッ皿はい、だらう」株仕方がないサ〇「ポイ様後はオート車だよ四ツと飲んでる内にも株様は先刻の人形が可愛さに「どうも此人形はい、さ」と眺めて居た拍子にツルツと手を外して床のコンクリートに落して微塵に割つて仕舞つた。拾ひ上げてくつつけて見ようにもあまりに小さく割れて手のつけ様がない。泣く泣く人形代より高い會計を濟まして「嗚呼俺は昨夜夢見が悪かつた水族館の河馬が腹の上で逆立ちした夢を見た」さほくとして驕亭の晩餐會に向つた。

！の創設者志村氏が當時は體育會にも入る事が出来ず自分等が購金して道具を買つた苦心談や、又は海邊氏の如きは今こそ頭が飛んで居るが昔は之でも端紙を六年、柔道を七年で二段に、野球にテニス、何でも御座れの運動家であつたとの述懐談がある。頗る運動に關係のある人が多い。生徒側では、例の渥美さん巨軀をヤハリ起して咳一咳「私は法律科本科三年の渥美といふ競走部の幹事です、あの體で走れるかといふ疑問起る、今年卒業する積りですけれど卒業させるか否かは偏に板倉先生の胸中にある事です」と際際い處で要領のい、挨拶をして一座の顔を解いた。酒が廻るにつれて本場の博多節が盛んに出る。藝者諸姉は先生の挨拶を無視して兎角先生の方ばかり敬意を表したが、そのけん言ふたつちや判つておりますよ、あ、あたしが顔は濃さんでも真ござつともんし等と語が益々はつむ陳だが此方には中分も判りはしない。然し中にも一番敬意を表されたのは何と云つても松本ボヤさんであらう。明晩

は吃度ですパイ吃度ですパイと盛んに念を押されて居る松諸々明日は解散するのだからさ引受けて居る。何の事だか博多言葉と同じで腫張り判らない。ホに敬意を表されたのは白川六郎君だらう。向の知つてる人を此方を知つてゐるさかて盛んにもして居る。斯くして主客十二分の歡を盡して散會したのは十時を少し廻つて居つた。宿に歸つたら松本君が大それた御土産を見せて呉れた。何でも先刻貰つて歸つたのだらうだ。ヨガヨシイナニイセンセラクタイといふ呪文を唱へるさ見せてやるといふ事だ(呪文は決して逆さに讀んではいならない)。右の呪文を唱へて見せて貰つたのは「絹の手巾」だ。代りに手袋を取られた事まで附加して呉れた。

◇解 散

斯くして到る所で歡待を受け、楽しい、親しい旬日の旅行も終へて解散を宣告せられた。

阿蘇山に登るもの、鹿兒島に向ふもの、四國の道後温泉に行くもの等それく思ひくりに別れを惜し

んで出發した。渥美君や松本君、林君、秋山君等は今年限りかと思ふと一層名残が惜しい。

新舊幹事の友情は斯くして温められ、去る者は我體育會に盡きせぬ愛着を感じ、残る者は又來年の此旅行を期して待たないものはないであらう。事情の爲めに参加出来なかつた幹事諸君に來年は是非加はつて貰ふ事を希望する。こんな愉快な旅行は學校を出ても決して出来まいと思ふ。學校に居る時も頗つ

なぎに非常にいゝ機會である。來年は出雲が北海道かどららかの内ださ聞いて居るが願はくば汽車は一つのセクションに集めて貰ひたい。その方が賑やかでもあり、親しむ機會も多く、眞に懇親旅行の意味を徹底させる事が出来ると思ふ。今度の旅行にも、散りぐの汽車旅行よりも紅丸の一室に團樂して瀬戸内海を航海した方が數倍愉快であつた。それぢや皆さん來年も亦一所に参りませう。

天幕其他器具の貸出に就て

今學期より當部に於ては改めて汎く學生一般に對して當部所有の天幕及附屬器具等を貸出すことにしたがそのことに関して少しく御報告して置きたい。

先づ當部所有の天幕のことに就て言へば、當部の天幕はその使用の目的がまゝとして登山中の小屋の代りにする純然たる野營用のもの故多くは小型で輕量

山 岳 部

であるから、これを以て純粹の天幕生活等をなすには決して理想的のものではないことを御承知願ひたい。然し乍ら圓錐形の大型のものならば可成りこの用には立つ積りでゐる。近來は塾内にも純正なキヤムペンクを目的とした人々のグループもあつて、その熱心なる研究を發表なさしてゐる程に、仲々キヤ

深川區宮川町二 高野 一三
 牛込區砂土原町土佐協會 七條 清則
 麻布區龍土町二 中山 三郎
 牛込區南稷町三九 石原 青彌
 相模部幹事 芝區白金三光町三三 阿部 英兒
 芝區三田四國町七ノ一 稻田 勤
 麻布區龍土町四六、三光寮 山田 菊雄
 小石川區諏訪町四四 羽柴 榮一
 山岳部幹事 赤坂區青山北町五ノ四尺 寺田 豐次郎
 澁谷町中澁谷一〇村屋方 豐邊 國臣
 芝區西久保櫻川町十七 山縣 正章
 横濱市中村町一〇〇 大島 亮吉
 市外千駄ヶ谷町七三五 宮川 久雄
 書記 慶應義塾寮宿舍 佐々木 洋之輔
 同 川口 五郎
 藤田 一彦
 雜誌編輯員 野崎 喜代治
 赤坂區青山南町三ノ四五禮垣方

體育會師範
 柔道部 澁谷町下澁谷一八七四 飯塚 國三郎
 劍道部 芝區白金三光町七一 中野 正三雄
 弓術部 綱町運動場弓術部連券 鶴田 三三雄
 器械體操部 麻布區新廣尾町三ノ四尺 和氣 敏之介
 大石 柳藏

大正十年度第三學期定期役員會
 承認新幹事左ノ如シ

柔道部幹事 長谷川 彌馬夫
 同 木村 賢八郎
 弓術部幹事 木戸 英祐
 同 深山 準三郎
 蹴球部幹事 高橋 雄雄
 同 山口 六助
 相撲部幹事 野田 秀助
 端艇部幹事 首藤 三八
 陸球部幹事 高谷 幸造
 水泳部幹事 長塚 龜三郎
 競走部幹事 青木 好之
 雜誌編輯員 北川 虎雄

編輯便り

◇最初は本誌を第二學期中に發行致し度いと思ひ
 まして原稿蒐集に編輯員一同努力しましたが締切期
 日までに體育會各部々報及其他的原稿が思ふ様に集
 らず、尙寄稿契約の分も期日までに間に合はないの
 が多かつたので、理事の了解を得て、今學期發行の事
 に決定致しました。何卒以後は締切期日までに御投
 稿せられん事を希望致しますと共に、早速投稿され
 た諸君に對しては深く感謝致します。

◇締切期日までに集つた原稿があまり少いので、
 發行を三學期に延期したのですが、期日以後になつ
 て思ひがけなく、急にたくさんの方の投稿があり、制限あ
 る紙數に到底全部を載せる事が出来なくなりました

ので、協議の上文章の或部分は短縮し、又不本意作
 ら全然没書にするの止むなきに至つたのもあります
 から何卒悪しからず御了承の程を願ひ致します。

◇本誌には一般學生諸君の投稿が甚だ少かつたの
 は残念でした。事情の許す限り多重を載せ度いと思
 つて居るのですから次回からは全學生諸君の振つて
 寄稿されん事を希望致します。

◇記事中配字の都合上止むなく英字の一級音字を
 途中で切つたり、切るべき所でない所で字を切つて、
 次行で繋いだ様な字もありますから御承知下さい。

◇本誌次號の原稿締切は第二回を本年六月末日限
 り六月末迄の記事募集、第三回を十月十日限（七月
 より十月十日迄の記事募集）と致しまして、第二學
 期中に發行致し度いと思ひます。